

地域懇談会実施報告書

◎自治会名 幸町

◎開催日 平成 24 年 4 月 9 日(月)

◎時間 19:00 ～ 21:10

◎開催場所 幸町公民館

◎参加人数 29 人

◎懇談内容 別添 会議録



行政側参加者氏名

庶務課市民活動支援係 竹村 静哉
勝野 和子

庶務課秘書係 横山 雅史

記録者氏名

庶務課市民活動支援係 勝野 和子

幸町地域懇談会会議録

平成 24 年 4 月 9 日(月)19:00～

幸町公民館

1 開会 幸町自治会長

2 自治会長あいさつ

今日は、寒い中ご苦勞様です。懇談会を計画したのは、広域で進めているごみ処理の勉強会をしようというのがきっかけだった。どういう経緯で三日町がダメになり、今後どう進めていくのか、ということを地域住民として勉強が必要だと思った。連合自治会で地域懇談会の取り組みがあると聞いて、市長から直接話を聞くのがいいと思った。初めに市長から話を伺い、皆さんの意見、質問を聞きたいと思う。

3 市長あいさつ

新年度が始まって非常に忙しい時期、また週の始まりの月曜日、お仕事でお疲れの後、大勢の皆さんにお集まりいただき、幸町の懇談会が開催された。心から御礼を申し上げる。

地域懇談会は特にテーマが決まっているわけではないので、自由に意見交換をさせていただきたい。

私が就任して6年経った。就任時に大町市の10年間の長期計画、第4次総合計画を作った。そのテーマを「きらり輝くおおまち」と名づけて、一人一人の市民の皆さんの笑顔がきらりと輝くような街づくりを進めていきたい。市民の皆さんにもどんどん市政にご提案いただき、一緒に地域づくりをしていきたいと提案してきた。その前期の5年間の計画が昨年度平成23年度で一段落して、この24年度を初年度とした後期5年計画を作成し重点的な課題を3つに絞り、取り組むこととした。

1 つは、人口減少に対応するための定住促進。今まで住んでいた方にはずっと住み続けていただき、大町に移住して来たい方は積極的に受け入れていきたい。

2 つ目は雇用、働く場の確保と産業の振興。働く場があることで心が豊かに、経済的にも豊かになる。既存の商店や企業の業績が拡大できるような取り組みと、新しい産業の立地を進めていく。

就任してからはニツ屋に水の工場アルプスウォーターが立地し、いままで2回の増設をしながら水の売り上げを伸ばしている。市内でも時々26tの大型トレーラーを見かけるが、市の水道から水をパイプで買っていたいて、平成23年度の決算では、2,500万円を市の会計に入れていただいた。また税金や雇用を通じて地域の振興に大きな役割を果たしている。さらに増設という計画もあるので応援をしていきたい。

また東洋紡の跡地はホクトが立地した後、工場立地が進んでいない。今まで何回か打診、引き合いはあったが、リーマンショックで計画を延期したいとか東日本大震災があり、なかなか成案に結びついていない。しかし今でもご相談を何件かいただいているので、なんとか結び付けていくように最後の努力をしていきたい。

3つ目には、防災対策を含め安心して安全に暮らせる地域づくりを進め、定住の促進、働く場の確保につなげたい。また、医療、福祉というソフトの基盤も培っていききたい。そのために6年間医師不足に悩みながら頑張ってきている大町病院の再生に力を入れたい。まだ累積赤字はあるが、昨年23年度の決算見込みでは、単年度の黒字に転換できる見込みとなってきた。ただ4月からは内科の医師が2人足りなくなっているので、1月以降何回か信州大学や県に医師の派遣をお願いしている。できるだけ早く不足している分野だけでも解決していきたい。

また、ごみ処理場をきちんと整備し、市民の皆さんから日常出るごみをきちんと処理することも安心して暮らしていく基盤となる。

以上、3つの重点プロジェクトを掲げて進めていきたい。

4月に入り、定住促進の対策本部を立ち上げて、市役所全体で取り組むという方針を明確にした。結婚をしたくてもなかなか結婚に結びつけない人たちに、出会いの機会を設け婚活セミナーを開いたり、交流イベントを開いていくという実行委員会を今日立ち上げ会長は私が仰せつかった。今、若い皆さんは生活の不便さがないために結婚しようという気構えがないということも聞く。出会いの場を作って、家族を持つということ自体は苦勞も伴うが、その苦勞の何倍もの充実感、幸せがあるということを伝えていきたい。専門家の先生の講演会などを予定したり、山ガールも増えてきたのでスキー場などを使った交流イベントも考えていきたい。

今市民の皆さんにご心配をおかけしている課題が2つある。

その1つが広域で進めているごみ処理施設の問題である。新たな候補地選びをスタートさせたところであるが、その前段として昨年の11月に三日町の候補地を断念することとした経緯に触れたい。

もう4年前になるが、白馬村の飯森地籍を候補地として決め、地元説明会を通じて白馬村の皆さんにご理解をいただくために取り組んできたが、最終的に住民投票という形でアンケートを取った結果、55%の方の反対で、飯森地籍で整備することを断念した。北アルプス広域連合で進めてきた基本的な計画づくりや候補地の選定方法は、外部の先生方や委員の方に入っていて決めてきたが、最後の一年間をかけて候補地を絞り込む過程では、3市村の副市村長、担当課長で委員会を作り、内部で検討し、途中経過を発表すると混乱が起こるということで候補地を1か所に絞り込んでから発表した。それが、行政内部だけで秘密裏に進めたのではないか、発表の仕方がいきなりだったのではないか、住民参加をもっと進めるべきだ、情報公開をしっかりして候補地を絞り込むべきだ、という大きな批判をいただくこととなった。

そうした反省に立って3年前から始めた候補地選びでは、まず広域連合の中に19人の委員会を作り委員は専門家の先生方、信州大学、あるいは長野高専の先生方、3市村の地域の代表の皆さん、公募による住民の皆さん6人の方に入ってください、すべての会議をオープンにし、傍聴していただき、取材にもどんどん入っていただいた。決めたことについて広域連合のホームページ、また広域連合や3市村の広報誌を通じて皆さんにわかりやすい内容でお知らせした。一年間にわたり計13回の委員会を開いて、最終的に6か所に絞り込み、委員会の主催で6か所の地区に対して説明会を開いた。その後、三日町を最終候補地として発表し、広域連合の選定委員会から理事者に答申をいただいた。おととしの11月30日に私も出席し三日町の自治会に説明会を開いた。その後三日町の自治会から自治会の中に対策委員会を作るのもう少し待ってくれと言われた。対策委員会が発足したのが4月頃で、できるだけ早く2回目の説明会をさせてほしいと申し入れてきたが、その時点ではまだ市長が来るのは早いと、なかなか説明の機会が設けられないまま6月の後半となってしまった。

ところが、自治会から問題点や課題を整理して報告してほしいとゆだねられていた対策委員会が、賛否を問うことになってしまった。その結果反対ということになり自治会の役員の皆さんもびっくりしてしまった。7月の終わりに、2回目の説明会をようやく開催し、「大気汚染が心配だ。」「居谷里の沢の水が汚れる心配があるのではないか。」「大地震の後火事になる心配があるのではないか。」など様々な疑問を出され、それについて私や専門的な知識を持った部課長から説明したが、なかなか納得がいただけなかったのが実情。

1つは居谷里の沢の最上流部に湧水があるが、これは地上に出て大気に触れる前にパイプで市の水道水源に使っていて、仮に大気が汚染されていても水道水源に一切影響はないものと考えられるが、それでも「心配だ。」「科学に絶対ということはない。」と厳しい批判をいただいた。

それから煙突の周辺にダイオキシンがまき散らされる心配がないだろうかという疑問もあった。ダイオキシンはバグフィルターという布を使って、煙突から出るときにはほとんど影響がないくらいにまで除去して排出している。そのように説明しても「事故があれば心配だ。」と言われた。

青島地区の現在の焼却施設も、周辺の皆さんに大気で悪影響が及ぼすことは一切ないようにチェックをしている。また大気の測定も定期的に行っている。全国には2,000か所以上の一般廃棄物の焼却施設が稼働していて、東京では、住宅地の真ん中とか駅の前にも焼却施設がある。それでも周辺の皆さんにご理解をいただいて安定的に稼働している。そうしたこともお話しさせていただいたが、最後は「いやなものはいやだ。」ということで、自治会が行う住民投票で約55%の人が反対ということになった。9月の終わりに反対の決定が行われた後2か月間、様々な分野の方や三日町の何人もの方と意見交換をし、説明会のご案内をするため1軒づつ訪ねてお願いもし

たが、「もうこれ以上自治会を困らせるようなことはしないでほしい。」と言われた。もともと三日町の候補地となった場所は、建設会社が土砂採り場として現在も採っており、広々とした平地である。地権者の方からも使ってほしいと申し入れがあり、周りが森で囲まれていることもあって、三日町の皆さんにそんなに影響はないだろうということで絞り込んだが、これ以上無理をお願いできないということで、議会とも相談し断念することとした。

法律的には地権者の了解が得られれば造れないことはないが、周辺の自治会の皆さんのご了解が得られず断念せざるを得なかったということでご理解いただきたい。

今、山下地区でお願いしている施設も徐々に老朽化が進み、一年間で約1億円の修理費がかかるようになってきているので、できるだけ早く新しい施設で安定的に稼働していきたいと思っているが、今までの2回の反省点に立ち、まず自治会の皆さんで受け入れてもいいという相談ができたところに立候補していただく、いわゆる手あげ方式をお願いしている。このことは2月の今年度最初の連合自治会の総会で、私から、また担当の部長からもお願いした。

施設を受け入れることが地域の発展につながるような考え方、例えば、道路が狭い、通学路をもっと整備してほしい、あるいは併せて産業振興のための誘導策も織り込んでほしい、などそれぞれの地域の課題を一緒に解決していくような取り組みを進めていきたい。

今年の9月末日までに受け入れてもいいというところがあったら、是非手を挙げていただきたい。現在、不正確だが、10か所くらいで検討を模索している。地域の合意形成にはもう少し時間がかかると思うが、いくつかの候補地の案が出たところで大勢の皆さんの意見を聞きながら絞り込んでいきたい。

1か所も最終的に手を挙げるところがないという心配もあるが、その場合議会の皆さんと相談しながら理事者としても政治的な決断の中で、調整に一生懸命努力をしていきたい。

立地条件というのは100m四角、約1畧の平坦地であって地権者の皆さん、地域の皆さんの合意がいただけるというわずかな条件にしてある。もし可能性があれば幸町でもご相談いただければありがたい。私どもから指名することは差し控え、それぞれの地域の皆さんのご相談にゆだね、そのご相談の中に市も一緒に加えていただきたい。

もう1つは、新聞報道でもご存知のように、八坂地区にある明日香荘の経営問題。明日香荘を経営している株式会社あすかの杜というのは、資本金5千万円で、半分の2,500万円は旧八坂村から引き継いで市が出資し、残りの2,500万円は約200人の皆さんが1口とか2口出資して会社を作り、その会社が指定管理という形で明日香荘を運営している。急激に収益が悪化して、今年の2月に手形がたくさん振り出され

ていることが金融筋からの情報でわかり、これに基いて会社と話をしたところ、もう不渡り手形が出てしまうかもしれないという情報が入ってきた。実は22年度決算では徐々に累積赤字があったので、資本金がそのまま残っていることはないと思っていたが、2,300万円の現金は残っているという会計事務所からの正式な決算報告もあり、そんなに急激に経営が悪化することはないだろうと思っていた。また昨年の大震災の後、急激な利用者の落ち込みがあったので、県と市の制度資金で緊急融資の1,500万を借り入れしていたので、資金難になるのは不思議である。その直後、市からの補助金を出して支援することはできないか、金融関係から追加の融資を受けることはできないか検討し打診をしたが、金融筋から「相当の負債を負っている可能性があるから銀行としても慎重に考えざるをえない。」と言われた。経営再建が可能であれば、市からの補助金を出す意義もあるが、もし行き詰まることが分かっていたら市民の皆さんの税金である市のお金が無駄になってはいけなないので、取締役会とも意見交換をしながら、経営の実態像を正確につかもうと調査をしている。全体像が正確につかめる状態になっていない。何かほかに大きな原因があるのかどうか、しっかり調査をした上で市民の皆さんにも、債権者の皆さんにもきちんと説明する機会を設けてもらわなければならない。

しかしながら会社としては、すでに破産の手続きに入りつつある。明日香荘は市の大切な公共施設なので、新しい指定管理者を見つけるのか、それまでの間、市が直営でも運営を担うのか、議会とも相談してできるだけ早く、運営することを前提に調整を進めたい。もう少し時間をいただきたい。

さまざまな課題があるが1つずつ丁寧に、決して希望を失うことなく取り組みを進めていくので、様々な観点からご提言やご意見、ご質問をいただきたいと思う。

出席者

三日町のごみ施設の候補地というのはすごくロケーションのいいところ。例えば長野でいえば温泉プールとか娯楽施設とかごみ処理施設に何か付帯施設は考えてはいなかったのか。

市長回答

もちろん併せて考えていた。1つは熱回収施設ともいわれているが、焼却施設から出る熱を冷ますことから出るお湯を使って地域振興策というのも考えられる。それからもう1つは、周辺を運動場や公園に整備することも構想していた。11月30日の最初の意見交換会の時に提案したが、その議論は深まらないまま2回目の懇談会では、「私たちはそんな施設やお金にはつられない。」と言われ、具体的な内容については提案をしないまま終わってしまった。地元の皆さんの質問への回答文書の中には明

記してある。ただお湯を使うということについては、3市村のごみの量は、人口で約4万人強の規模なので燃やす量が非常に少ない。施設の処理規模は40t台で、例えば松本市島内にあるラーラ松本が250t、それから隣の安曇野市の大王のわさび農場のところにある施設が150t、あの位の規模になると相当のお湯の量が確保できるが、安曇野市に比べても1/3の限られた量。具体的に言うと50mプールの1レーン分のお湯の量しか得られないが、温泉施設等も要望があれば考えていかなければならない。

出席者

市の市有地に計画はできないのか。

市長回答

市が所有している土地が一番実現性が高い。例えば、ニツ屋の奥の小熊原や河川敷など可能である。ただ市有地であっても周辺の皆さんの同意をいただきたいので、市がこの土地がどうかということは初めから提案することは差し控えたい。

出席者

難しいですね。

市長回答

今の山下地区では、ごみ焼却施設、し尿処理施設、それから地区に隣接して水道の終末処理施設、それが適切に運営されているかどうかの検査は地区の皆さんに必ず立ち会っていただく。例えば環境プラント、ごみ処理施設については年2回、日を決めて地区の代表の皆さんにも一緒に立ち会っていただき、出た結果は自治会の皆さんにお集まりいただいて説明会を行う。安心と行政が言っても安心できないことがあるので、地域の皆さんにも参画していただいて、運営の面でもチェックをしていただくということが大事なので、新しい施設を受け入れていただく際には、地域の皆さんの合意のもとに受け入れていただく方針を考えている。

主席者

東洋紡の工場跡地は候補に挙がっていなかったのか。

市長回答

二回目の候補地の選定の時には自薦他薦を問わず、適地と思われるところがあったら応募していただきたいと公募したところ、30か所以上の候補地の応募があり、その中で条件に当てはまらないところは外し、最終的に候補地選定委員会で絞り込み

をしたが中には、東洋紡の跡地も提案されていた。検討した結果、ここは現在工業用地で、立地の良さから雇用の場を広げる工場誘致を進めていきたいということで除外された経過がある。

大都会に行けば、マンションの隣に煙突が立っていて、心理的な圧迫感や心配はないだろうと思うが、それでも立地している。そのようなところが全国を見れば普通にあるので、これから選定にあたっては、決してご迷惑をおかけすることのない、健康に被害が及ぶ施設でないということもしっかり説明していきたい。

出席者

山下地区にごみ処理場ができた時には、もう何年後には返すという約束があったのか。

市長回答

正確にはない。山下地区のごみ処理施設は昭和40年代にでき、改築されて今の施設になったが、改築した時にはいつまでという期限は付されていなかったと聞いている。そのあと平成14年だか、ダイオキシンの基準が見直され再検査した時、基準を上回るダイオキシンが発生されていることがわかり、一定期間稼働を止め松本市島内の施設に受け入れをしていただき、改修をした。地元の皆さんからこれからは決してそのような事故のないようにと申し入れがあった。次に改築するときには大町市単独ではなく広域連合として、平成27年度を目途に新しい施設を作ってそちらに移しますという約束を、行政側から提案したというのが経過。だから現在でも山下地区の皆さんからは「私たちが出て行ってほしいと言ったことはない。」と言ってくれる方もいる。建設するまでには反対意見もあったが、最終的に受け入れてくださってからは安定的な稼働にご協力をいただいている。

もし他に候補地がなかった場合には、もう一度山下地区にお願いに行ったらどうかと提案はあるが、先ほど述べた経過があるので、できるだけベストを尽くして新しい候補地を見つけ地域の皆さんにご理解いただくのが第一優先の課題だと思っている。

出席者

今日から交通安全週間だが、通学路の安全について学校で指導しているのか。何列にもなって歩いていたたり、見ないで渡ったりしている。私たちが見ているときはいいが事故に遭いそうで危ない。

市長回答

西公園からずっと西小学校の界隈は昔ながらの道が多く歩道が整備されていない狭い道がほとんど。周辺地区の皆さんが自治会を通じて危険個所の具体的なご提案

をいただきたい。また、西小学校はPTAの皆さんが現地確認をしながら毎年学校の周りの安全を確保するための具体的な提案、陳情をいただいている。何年か前に事故があったこともあり、子供たちの安全にかかわることは前倒しで整備を進めてきて、水路やガードレールはだいぶ整備されてきたが、道の幅を広げるということについてはなかなか進んでいないのが現状。その中で昨年の秋に西小学校を中心としたこのあたりの安全対策を検討していこうという呼びかけが県からあり、安全対策を向上させるための計画づくりを今進めている。具体的に危険な個所があったらお寄せいただき部分的な改良を含めて対応をしていきたい。

出席者

焼却炉のお湯を使って納豆の工場みたいなものを作り雇用を増やせば地域の人は賛成するのではないか。

市長回答

確かに産業の立地にプラスになるようであればそうした対応も可能だと思うが、いろいろな場所の例を聞いても、わざわざごみ処理場のお湯を使わなくても必要に応じてボイラーでお湯を沸かすことができるので、お湯を使った産業、企業が利用しているという例はあまり見当たらない。もしそうした提案があれば工場誘致にもつながるので、呼びかけていきたい。例えば温水を使った温室を作って、花や山野草など花の栽培に使おうということは前にご提案をいただいたことがあるが、温室の一定の温度を保つためには灯油をたいて温度を維持しているケースが多いので、灯油の値段が上がった時には経営が非常に厳しくなるので、安定的な熱量を使うというのは 1 つのアイデアである。

出席者

断念した三日町の候補地から見る北アルプスは全貌が見えてすごくいいところ。山は 100 年たっても残っている。観光資源としたらこれ以上のものはない。来てのない工場誘致より、観光面で押していく方がいいのではないか。

市長回答

北アルプスの高さを感じられるのは東山で、もちろん鷹狩山の頂上もそうだが、山下地区、木舟にある戦国時代の山城からロープウエーをかけたら展望が素晴らしいよと提案をいただいている。そうした中で、鷹狩山の頂上には展望公園を作る協働のまちづくりの皆さんが頑張っているが、そうした整備をしていくことで北アルプスがよく見えるロケーションを作っていくことも 1 つの方法だと思う。三日町の場所は市の所有地ではないので、仮に焼却施設を立地することになれば、周りを展望公園にするとい

う案も地域説明会で提案させていただいたことがある。土地の所有者である会社が手放した上、市が行うのではなく、民間の皆さんが観光的に行うという構想を練るなら、市としてもできるだけお手伝いをさせていただきたい。

出席者

今ごみ処理場とし尿処理場、下水道の処理場が同じ場所に立地しているが、それを切り離れた時、ごみ処理場だけ遠い場所になることによる、弊害の心配はないか。

市長回答

現在し尿処理施設、クリーンプラントとごみ処理施設の環境プラント、そして下水道の終末処理場が立地していて、ごみ処理施設とし尿処理施設はほぼ隣接して同じ敷地にある。これはたまたま下水道終末処理施設は一番下流に位置するという事で山下地区に立地する必然性があるが、し尿処理施設とごみ処理場施設はそこに立地しなければならないという制約はないし、またその2つの施設が隣接していなければならないという必要性もないと聞いている。ごみ処理施設が他の場所に移転しても大きな問題はないと考える。

出席者

例えば高い場所にごみ処理施設を作ったら、道路整備とか雪の除雪とかにお金がかかるが、市の財政を圧迫するのではないか

市長回答

立地する上ではそういう要素も考えていかなければならない。今の3つの施設は整備水準の高い県道明科線に面しているので市のコストはほとんどないが、今後適地が見つからずに山の中に設置した場合は、一般の方がごみを持ち込むということを考えれば除雪の水準も挙げていく必要が出てくるので、あまり増高経費が掛からない場所を選ぶ必要はあるが、万が一そういった場所しか得られない場合はできるだけ初期投資や運営経費は最小限に抑えたいとは考えている。そうした条件を付ければつけるほど適地は難しくなるので、まず、同意をいただける適地を捜し、その中でランニングコストの掛からない場所を選んでいきたい。

前回三日町を候補地として絞り込んだ時の絶対条件として、幹線道路の近くであること、電源が近くまで来ていること、上水道、地下水の確保が可能なところなど、たくさん条件を付けた。今回は条件を多くすると適地が限られてしまうので、最小限の条件だけ示し、手を挙げていただくこととした。

出席者

今市ではごみを分別しているが、どこかの国が忘れたが、生ごみだけを分別してプラスチック類は燃やしてエネルギーにしてしまうという国があった。そういう考え方で熱効率を上げて他のものに使う考え方はないか。

市長回答

世界中様々な考え方がある。オーストラリアでは燃やすこと自体大気に影響があるので埋立っていると聞くと、国土が広いからできることである。燃やして灰にしごみを圧縮するというのが、多くの国が取り組んでいる方法である。またごみを分別しないで熱の回収に取り組んでいるのがドイツである。日本は限られた資源なのでリサイクルを前提に考え、できるだけ分別し再生している。

市内の小中学校、保育園、今後は大町病院など集中的に生ごみの出るところの、生ごみのたい肥化を進めていて、それを徐々に広げていきたい。街中で生ごみをたい肥化できないところはこれから地域を設定して、生ごみを分別して出していただいてそれをたい肥化するような仕組みを作っていきたい。日本ではどうしても燃やさなければならぬものだけ適切な方法で燃やすという考え方を取っている。大町市もそれに沿って広域連合で基本政策を定めてある。

出席者

生ごみが一番石油を使う。

市長回答

生ごみを燃やすため、助燃剤という油を投入することもあると聞いている。大町の処理施設でどのくらい使っているかは聞いていないが、やむを得ずそうした方法を取っていると聞いている。ある意味では資源を無駄に使っていることにつながりかねない。

出席者

公募の期限の9月まででない場合はどうするのか。

市長回答

そういうことのないように、先進地施設の視察を行い理解をしていただくよう努める。今月の下旬に飯山の寒川の施設の視察を自治会の役員の皆さんに行っていただくように計画をしている。そうした最新の施設を具体的に見てもらい、周囲の環境に影響がないことを理解していただき適地に手を挙げていただく。多くの皆さんに先進施設や現在の施設を見てもらい、環境を整えていきたい。それでもなお手を挙げていただくところがなければ、行政として政治的な決断の中で、地域の皆さんに提案する局面

もないとはいい切れない

出席者

三日町がだめになった時に思ったが、市有地を有効利用するというのが私は最善だと思っていた。小熊原には昔から災害を防止した堤防が残っている。コンクリートの合掌を組んだようなもので、災害を防いだ、昭和の初期からあるものがある。歴史的なものを残しても1割というものはクリアできると私は思っている。一日も待てない施設である。1日 40tという少ない量なので早めに進めるためには市有地ということがいいと思う。

市長回答

市有地を使うということになると限られる。市有地といっても一方的な提案をすることについては周辺の皆さんの大きな反発を招きかねず、今のところそういう提案はしていない。もし本当に他に提案がなければ、最終的には政治的な判断の中でそういう提案をさせていただくことも避けては通れない。

出席者

景観のことでダメになったのが飯森、住民の合意が得られなかった、とにかく迷惑施設は嫌だというのが三日町、迷惑施設が嫌だというのはどこも同じ。だから手を挙げてくれと言ってもダメではないか。

市長回答

確かに楽観はできない。市内では5カ所を超える地域が水面下で相談をしてくれているようだ。私のところにもあそこはどうだと言ってくれる方が何人もいる。そうした中で、地域でもいいじゃないかということになればありがたいが、そうした話がまとまってくるのか決して楽観はできない。様々な手法で最後まであきらめずに可能性について模索をしていきたい。日々どんなに努力をしていただいても最後に出るのはごみというもの。時間まできちんと調整を進めていきたい。

出席者

大町ダム付近、国有地(国有林)に造れないか。

市長回答

国有林の場合は平坦な土地があまりない。仮にあったとして打診したら保安林に指定されて開発が規制されているというケースがある。もし国有地でいい場所があったら提案いただきたい。

アルプスあづみ野公園の上の方は国営公園の土地ではないところがたくさんある。比較的平坦な土地もないわけではない。集落から離れているというメリットもあるので、国営公園の景観に影響がなければ適地として挙げがってくることもあるかも知れない。

出席者

先日、4月5日の信毎に県内の空間放射線の数値が出ていたが、これを見ると大町の数値が0.092で長野県でも一番高いが説明をお願いしたい。

市長回答

まず、空間放射線量は場所により、日によりずいぶん変動があると聞いている。時々特定の影響から色濃く出るということも聞いている。一般に大町から松川村など、高瀬川の扇状地の部分は、花崗岩の中に放射線物質、ラドン温泉とか、ラジウム鉱泉とか呼ばれている自然由来のものが影響している可能性がある。報道をよく読んでないが、市議会にそういう質問をいただく際にも専門家に聞いてそう答えている。

大町市が常時長野県で一番高いということはないと思うので、今後の報道も見てほしい。続くようなら市としても詳細な調査をしていかなければいけない。今のところ県に照会してもそのような心配はないとのことである。

出席者

ここは安全だといわれても比較するものがなく何が安全なのかわからない。
3.11 原発事故があってから問題になっているが、その前のデータはないのか。

市長回答

ないようだ。従来日本各地でこんなに精密に調査をしようということがなかった。ただ1ヶ所だけ東京の国立にある国立天文台では戦後ずっと定点観測をしてきて、そのデータは揃っていると聞く。そのデータでは、世界中で原爆の実験が行われていたときは、何万倍という数値を私たちも浴びていたということになる。それ以外の各地では累積されたデータはない。

出席者

山菜がおいしくなるが、どこか大町市でお金を出さなくても測ってもらえるところはあるのか。

市長回答

大町市でも簡易測定器を3台購入しているが、それがどの程度正確に測定できるか。大町市では保育園や学校の庭で測定しているが、機械の空いてる時には測定が

可能だと聞いている。生活環境課にご照会いただきたい。

4月1日から食品基準が強化された。それでも科学的な立証ができていないので心配だという人がいる。今まで私たちが無意識に摂取してきたものの中には、自然由来のものもあり、様々なりスクを気が付かず食してきた。例えば大町市でも学校給食を委託で調査している。1回だけ北関東産のしいたけが、市のチェックの基準を超えていたということで新聞発表した。これがただちに影響があるかというのは何とも言えない。私が大丈夫だと言え、問題になるが、大きな影響を及ぼすことにはならないという一般的な見解もある。これは私の個人的な見解だが、ご自分で取って食べるキノコや山菜は莫大な量を食べるのでなければそんなに心配ではないのではないかと。本当に心配されている方には失礼な発言をしたかもしれないが、個人的にはこのように感じている。

出席者

災害が起きた時の助け合いという地域の取り組みを進めていくということは有意義なことだが、情報が途絶えた時、大きな放送局の電波は入ってきても、地域のローカルの情報は入ってこないのではないかと。いざとなればこの地区が知りたい情報は松本や長野から出るものではなく、地域の情報がほしい。一般家庭のラジオとかからとれないのか。

市長回答

私が長野市に住んでいたとき大町では雪の降っている中、中心市街地の火災が起こり、横に延焼し、雪がかぶっていたために炎が立ちにくく、近くの人が気が付かなかった。また大町市内の皆さんは市内で大きな火災が起こっていることを遠くの知り合いから言われて初めて知ったということがあった。災害情報を地域で発信できるという仕組みは大変大事だと考える。

現在有線放送、防災無線、登録していただいている方に一斉に配信する市の緊急メール、ケーブルテレビ、この4つが災害の緊急情報をお伝えする手段となる。この中で線で結ばれているのが、有線放送とケーブルテレビで地震の場合に揺れて支柱が倒れたり線が切断されると使えなくなる。その時には防災行政無線、これは無線で電波を飛ばすので拡声器が倒れない限りは、市役所から情報を流すことができる。携帯の中継局が壊れない限りは緊急メールも使える。その2つが最後の砦ではないかと思っている。

ただ冬のように窓を閉め切って防音性能の高い住宅では屋外拡声器が聞こえにくいということがある。音を大きくすると拡声器周辺の皆さんから音を小さくして欲しいと言われる。そこで宅内の受信機があり、ラジオのような大きさを4万円から5万円かかるが、市の補助金の制度がある。心配の方には、そうした宅内用の拡声器を購入い

ただくことも検討いただきたい。

自治会長さんのお宅には、市から配備をするように手配をしているので、自治会町さんのところには第一報が入る。避難所に指定されている集会所には配備を終えている。ケーブルテレビも市の公費で配置している。

大町だけが甚大の被害を受けるような災害が起これば別だが、長野県の一定程度の範囲に被害が起こるような災害の場合には、一番は携帯ラジオ、電池は絶えず切れていないか確認する。防災対策の上でお考えいただきたい。

出席者

例えば美麻青具のトンネルはラジオが入る。大町市では、木崎トンネルは入らない。そこは必要ではないか。

市長回答

部分的に入るところと入らないところがまだ模様になっている。順次ラジオ放送も携帯電話も聞こえるようにしていけないといけない。できるだけ声を上げていきたい。

出席者

大町の財政指数は 18 から下がったのか。

市長回答

18 というのは公債費比率のことで、借金の度合い、大町市の財政規模に対し借金の比率がどうかということで、特に大町市では様々な投資を重点的にやってきたため、他の市に比べて借金の度合いが高い。私が就任した6年目は借金の比率は 22%で、22年度の決算では 18%まで落とした。まだ県の監視下に置かれているが、23年度の決算は 18%を下回るようになると思う。借金は この6年間死に物狂いで減らしてきた。金利の高いものは前倒しで繰り上げ償還してきた。その結果、公債費率でいえば県下ではまだ高い方ではあるが、赤信号でも黄信号でもないところまでこぎつけてきた。

出席者

基金はどのくらい持っているのか

市長回答

基金全体で 46 億円。そのうち財政的調整で足りなくなった時に機動的に運用できる基金は今のところ 18 億円。23 年度の特別交付税が3月下旬に思ったより2億円ほど多く配分された。当面基金の方に回すことになる。貯金するだけでなく基金を大事

に、機動的に使っていきたいと思っている。

市の財政状況については議会で議決いただき予算が成立した時と、前年度の決算統計が終わった時に、できるだけわかりやすいよう、広報おおまちに掲載をさせていただいているので、時間の余裕のあった時に関心のある部分だけでも目を通していただけるとありがたい。

出席者

大町の地方債の残高は

市長回答

数字を持ってくるのを忘れてしまったが、大町市の一般会計の予算規模がだいたい 165 億円くらいで、過去に公共施設を造るために発行した起債が、その倍くらい残っているが、残高は相当減ってきている。

出席者

年老いてきて大町病院がだんだん縮小されていくような感じが切ない。

市長回答

平成 13 年くらいには医師が 26 人いたが、今は常勤医師が 17 人。おとしは県や信大の大変なご尽力により内科の医師が 7 人に増えた年もある。今年経営は回復してきたが退職後補充されなかったこともあり、ご心配をおかけしている。具体的に充実してほしい科はどうか。

出席者

やはり脳外科のないこと。信大に入院した時に信大は重篤な人しか受け入れないので、少し良くなったら早く退院するように言われた。退院しても専門がいないので心細い。相沢病院、信大あちこち掛かった。息子には松本が遠いなんて言っていてはいけないと言われたが、若い人はいいが年寄りには心細い。

市長回答

まず脳外科は平成 16 年の終わりに、信大が多くの病院に脳外科の医師を配置することが難しくなってきたので、安曇野日赤に集約したが体制が十分かというところ、そこでさえ崩壊状態である。

手術をするときは特に脳外科は 3 人がチームになっていないと手術ができない。脳外科疾患の場合は特に緊急を要することが多く、常時 3 人の先生がいないと対応できない。今、中信平で常時対応できるのは、信州大学、相沢病院、一之瀬病院の 3 つで

緊急の場合にはそこに行くしかない。

出席者

大町病院の整形が足りないというのはどういうことか。安曇病院が特に混む。

市長回答

今まで3人の常勤の医師がいたが、去年、おととしと1人ずつ常勤から非常勤に回られて、若い先生が一人でやっている。特に高齢化が進むこの地域では整形外科の先生が必要である。

安曇病院は整形外科の先生が複数いるが、外科の医師が1人しかいない。精神科と心療内科は安曇病院、大町病院は外科、産婦人科の医師がそろっているので、お互いに今いる先生が協力し合って、病院と病院の連携をとり、住み分けていく。

脳外科もできるだけ早く充実していきたいと要望しているが、それが一番難しい要望だとはっきり言われている。3人の医師をそろえるというのは極めて難しい。ただ1人でもいれば、手術はできないが画像診断をして信州大学に送り、1日様子を見るのか、すぐ連れて行くのか、という判定をしてもらうことはできる。1か月くらい前に、1人くらいなら応援してくれる方がいるという話も内々であった。調整していきたい。

もう一つ、循環器系、心臓も一つ間違えば大変なことになるので、何とか医師の確保をしていきたい。今の医療は専門が細くなり、先生の担当する分野が非常に狭くなっているがゆえに、医師の確保ができないというのが現状。大町市では高齢者が多いこともあり、慢性期の患者さんを受け入れていくことも大きな役割だと思っている。超急性期で普通の病院では対応できない場合は、今のところ高度な医療設備の整っている信大、一之瀬、相沢病院に行っていただくしかない。そのために1時間かけて行くのは命にかかわることもあるので、道路整備についても取り組んでいきたい。時間はかかると思う。

出席者

大町病院では科によっては完全予約だが、外来も少し入れていただくような形にできないか。予約をする余裕がある場合はいいが緊急の場合もある。

市長回答

常勤の先生がいる科は予約が終わってからも一般の診察の方も入れることができる。ただ、眼科と耳鼻科は非常勤、週3回とか日を決めてきていただいている。その場合には、あらかじめ予約をしていただかないと診察できない場合があるので予約をしていただきたい。

緊急の場合はまず電話で状況を相談してほしい。医師はお昼休みも取れずに診察することが多くなってきている。できる範囲でお受けしたいので、相談してほしい。

出席者

救急車だが、医師の資格のある人が来るのか。救急車が来たとき、居る時間が長いと思う。すばやく対応してもらわないといけないのではないかと。何回か見ているが、止まっている時間が長いように感じるがどうか。

市長回答

医師は同乗しない。基本的に、救急隊員は専門的な技能を持って救急車に乗っている。運び込む病院も時間帯によっては当番性になっていて、病気によってはより専門性の高い病院に運ばなければならないので、基礎的な状況について問診をして把握している。ただ、頭から血が出ているのに問診をしている状態は普通はないと思うが、私の方から消防本部へそういうご意見があったと伝えたい。

出席者

松本歯科大で漢方を使っていて、遠くからも患者が来ていると聞く。また、中央大学に女の先生がいて漢方の資格を持ち、腰の手術をしてもだめな人に漢方で痛みをなくしていると聞いた。西洋の医者も漢方をやっているというので、大町病院も漢方の医者を連れてくるのも1つの方法ではないか。

市長回答

私の知り合いの医者も空いた時間を使って、東京へ通い漢方の勉強をしていると聞いた。慢性的な病気は体そのものの体調を整えるところから、病気を治していくと考え方が見直されていると聞く。中国では医師免許は簡単に取れるが、それは日本では通用しない。日本できちんと医師免許を取ってなおかつ、そういう分野でも専門的な知識を持った方がいてくれるのが一番いい。

医師免許を持っている人の中で漢方の分野でも対応をしていくということは、これからの課題である。頭に置いておきたい。

市長

今日は長時間にわたり様々な観点からご意見ご要望をいただいた。今日いただいたご意見や、ご質問をしっかりと胸に置き、これから1つずつ丁寧に取り組んでいきたい。今日ご出席いただいてご発言をいただかなかった方も、これがすべてではない。市長への手紙、メールという仕組みもあるし、私だけでなく市の担当課にお尋ねいただ

れば、担当課でも対応できるようにしているので、遠慮なくいろいろなお声をお寄せいただきたい。これからも皆様方のお声をいただき、少しでも解決できるように取り組んでいきたいので、これからもご理解、ご支援をいただきたい。長時間にわたりありがとうございました。

5 閉会 幸町自治会長

【終了 21:10】